



# 南山大学 (愛知県)



語学としての日本語を集中的に学ぶだけでなく、日本事情科目・芸術科目を通じて日本の社会や文化への理解を深める。また、学期を通じて行われるホームステイ・プログラムは、生きた日本語を習得し、日本文化を深く知るための効果的なプログラムである。

## ■大学紹介

### ① 大学の特色及び概要

#### 1) 特色と歴史

南山大学は1949年に設立され、8学部17学科、大学院5研究科12専攻(うち、1専攻は専門職大学院)の他、3研究所、9研究センターをもつ総合大学である。

中部地方唯一の男女共学カトリック校であり、「人間の尊厳のために」を教育のモットーとし、世界から選ばれる大学、世界に人材を輩出できる大学を目指した教育を行っている。

(2017年5月1日現在)

#### 2) 教員・学生数等

○専任教員数 355名 非常勤講師数 432名

#### ○学部・学生数等

学生数 9,999名

(内訳：学部生 9,794名 大学院生 205名)

うち、外国人留学生数 119名

(内訳：学部生 94名 大学院生 25名)

外国人留学生別科生 107名

#### ○学部・大学院研究科

学部：人文学部・外国語学部・経済学部  
経営学部・法学部・総合政策学部  
理工学部・国際教養学部

大学院：人間文化研究科・国際地域文化研究科  
社会科学研究科・法務研究科  
理工学研究科

### ② 国際交流の実績

海外協定校数 79校+1団体 (2016年度)

派遣交換留学生数 88名 (2016年度)

受入交換留学生数 61名 (2017年春学期)

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2017年：留学生数 119人  
外国人留学生別科生数 107名  
日研生 2人

2016年：留学生数 136人  
外国人留学生別科生数 117名  
日研生 1人

2015年：留学生数 161人  
外国人留学生別科生数 112名  
日研生 5人



### ④ 地域の特徴

- [1] 東京や大阪、京都など日本の主要都市へ行くのに便利。
- [2] 日本で4番目に人口の多い都市だが、東京や大阪比べ生活費が安い。
- [3] 都会にいながら窮屈ではなく、文化的施設や娯楽を楽しむことができる。
- [4] 自然に囲まれ、少し足を伸ばせば、すぐに海や山を見られる。
- [5] 自動車や航空産業など世界を代表する企業が集積。

## ■コースの概要

### ① 研修目的

(b) 日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行うもの。

集中日本語科目を柱とし、日本の文化・社会・経済等に関する科目のほか、フィールドワークリサーチや翻訳、ビジネス日本語、書道等芸術科目を開講し、日本についての基礎的・専門的・総合的知識の習得を目指す。単に日本語を学ぶのみならず、将来、研究や仕事に必要とされる日本語能力の向上をねらいとするとともに、深く日本や日本文化への理解を深めることを目的とする。

### ② コースの特色

コース名：外国人留学生別科  
(Center for Japanese Studies)

コースの特色：

集中日本語科目では、6段階(I-VI)のレベル別コースを用意し、各学生の日本語能力にあった学習が可能で、読む・書く・聴く・話すの4技能の各習熟度の違いにも対応する。その他、将来のキャリア形成に役立つ各種日本語セミナー、日本の文化・社会・経済等について英語による科目を設置し、単に日本語を学ぶということに留まらず、将来、研究や仕事に必要とされる日本語能力の向上や日本に対する理解を深めることをねらいとする。また、書道や華道等芸術科目を通じて「日本」についての基礎的・専門的知識の習得を目指す。学期を通じて日本人家庭でホームステイすることにより、生きた日本語や文化慣習に触れ、更には深く日本および日本人を理解する経験へと繋がる。また、フィールドトリップやコーヒーアワー等の活動や交流会館での宿舍生活を通じて、日本人学生との交流も図りながら、授業だけでなく大学生生活の中で、日本を学ぶことも重視している。

### ③ 受入定員

120名（大使館推薦 5名、大学推薦 1名）

### ④ 受講希望者の資格、条件等

- (i) 日本語・日本文化に関係する分野を専攻する者、または他の専攻分野でも日本語履修に意欲のある者。
- (ii) 在籍する大学での成績がB(4ポイント方式で3.0)以上であること。

### ⑤ 達成目標

研究や就職において必要とされる「日本語」の修得を第一の目標とし、最適な日本語クラスで最大の教育効果が上がるよう制度を整備している。本プログラムでの勉学と経験により、高い日本語運用能力を備えると同時に日本文化を深く理解し、日本語を使って世界で活躍できる人材、日本での進学や就職、日本語関連領域での研究者・教育者・就職者の増加に繋がるよう目指すものである。

### ⑥ 研修期間

2018年 9月10日 ~ 2019年 5月18日

秋学期 2018年 9月10日~12月21日

春学期 2019年 1月11日~ 5月18日

修了式 2019年5月18日を予定

(2017年の修了式は2017年5月20日に実施)

サマープログラム 2018年6月~8月

### ⑦ 研修科目の概要

原則として、1学期に集中日本語総合5単位および読み書き3単位を含む14単位から18単位を履修する。

1) 選択必修科目（各レベル総合5単位、読み書き3単位。各学期合計240時間）

集中日本語Ⅰ：日本語の重要基礎文法を定着させる。4技能をバランスよく伸ばし、日常生活の諸場面でも対応できる力を身につける。

集中日本語Ⅱ：日本語の基礎力を更に向上させ、長文読解も導入する。

集中日本語Ⅲ：上級の日本語コースへの準備。生教材の読解・論理的な文章の作成・討論等を行う。

集中日本語Ⅳ：語彙や表現力を伸ばし、更なる日本語4技能の充実を目指す。

集中日本語Ⅴ：日本語4技能の完成に加え、目的別の高度な日本語を身につける。専門書の読解、小論文作成なども行う。

集中日本語Ⅵ：集中日本語Ⅴを終えた学生のためのクラス。学生の主専攻分野を含む様々な学術領域の読み物を教材とし討論を行う。

#### 2) 見学、地域交流等の参加型科目

インターンシッププログラム等の参加型科目  
社会で通用する日本語を実践するため、2科目で履修者のうち数名を対象に職業体験プログラムを行う。また、フィールドワークリサーチやボランティアリングの授業も開講する。

#### 3) その他の講義、選択科目等

(i) 日本語プロジェクトワーク(5レベル、各1単位)  
各レベルの日本語力に合わせて、プロジェクトを計画し、口頭発表、論文提出を行う。

(ii) 日本研究関連講義科目（英語による講義、各3単位）

日本の経済\*、日本の経営\*、日本の政治、日本の宗教\*、日本の文学、日本の歴史、日本の文化\*、日本の外交\*、日本文化・芸術、フィールドワーク

\*学部学生の乗り入れ登録可能科目

(iii) セミナー科目（日本語に関するセミナー、各2単位）

講読(日本文学)、初級・中級翻訳、作文、創作作文、古文、学術日本語作文、ビジネス日本語、旅行業日本語、外国語としての日本語教授法入門、ボランティアのための日本語、講読(社会科学)、大学準備日本語

(iv) 芸術科目(各2単位)  
華道、書道、墨絵、版画、茶道

(v) オープン科目（学部授業への別科学生乗り入れ登録可能科目、各2単位）  
言語学、外国語教授法、日本語教育論、日本文化学、日本の社会、アメリカ外交と国際関係、戦争と平和、日本国憲法論

### ⑧ 年間行事

#### 秋学期

9月： 入学式、オリエンテーション  
クラス分けテスト  
ウェルカムパーティー

10月： フィールドトリップ

11月： 大学祭、フィールドトリップ

12月： 期末試験、フェアウェルパーティー

#### 春学期

1月： 入学式、オリエンテーション  
クラス分けテスト  
ウェルカムパーティー  
フィールドトリップ

2月： フィールドトリップ

3月： フィールドトリップ

4月： フィールドトリップ

5月： 期末試験、修了式・修了パーティー

#### フィールドトリップ：

歌舞伎鑑賞、陶芸体験、トヨタ自動車工場見学、学部学生との交流バス旅行等を実施する他、日本人学生が主体となり日本の伝統遊びやスポーツ等、月に1度程度交流行事を企画する。これら行事や種々活動を通じ、別科学生同士のみならず、学部や大学院の留学生、また、日本人学生との交流を深める機会となっている。



### ⑨ 指導体制

専任教員：22名 非常勤教員：19名

集中日本語クラスを担任制とするほか、日本語科目・日本事情科目各担当教員、学生生活担当教員を配置する。更に全員に指導教員をつけ、学業および生活の両面から個別指導が可能な体制を採る。

#### ○ジャンプラザ：

留学生の日本語習熟および日本人学生との交流を目的に、日本語のみを使用するジャンプラザを設置している。授業と連携して課題を課す取組等も行う。

### ⑩ コースの修了要件

連続して在学する1学期目に700コースを履修する場合、1年間に選択必修科目11単位以上を含む28単位以上を取得した者、連続して在学する1学期目に700コースを履修しない場合、1年間に選択必修科目16単位以上を含む28単位以上を取得した者に対し、修了証を授与する。

単位認定：履修科目について試験のうえ、成績を判定し、単位を与える。



### ■宿 舎

#### ①ホームステイ

日本人家庭で「家族の一員」として生活することにより、日常生活で使われる生きた日本語を学ぶことができ、季節毎の日本の伝統行事等を体験することができる。日常の日本文化の実体験が可能であり、日本の社会や文化に対する真の理解を深めることができる。

#### ②交流会館(寮)

名古屋交流会館と山里交流会館の2つの寮があり、日本人学生と共同生活を行う寮である。共同生活を通じて、国際理解や協力を促進することを目的として設置されている。なお、名古屋交流会館までは大学正門から徒歩1分、山里交流会館までは徒歩5分。

#### ○過去3年間の日本語・日研生の宿舎入居状況

- 2017年度受入2名：国際留学生会館(2名)
- 2016年度受入1名：名古屋交流会館(1名)
- 2015年度受入4名：国際留学生会館(4名)

### ■修了生へのフォローアップ

#### ①留学生同窓会

留学生同窓会Facebookを立ち上げる他、修了生のメイリングリストを作成し、年に2回ニュースレターを送信する。また、年に数回各国にて帰国留学生の同窓会を企画する。

### ■問合せ先

<担当部署>

南山大学国際センター事務局

住所： 〒466-8673

愛知県名古屋市山里町18

TEL： +81-52-832-3123 (直通)

FAX： +81-52-832-5490

Email： cjs-office@ic.nanzan-u.ac.jp

<ウェブサイト>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/>